

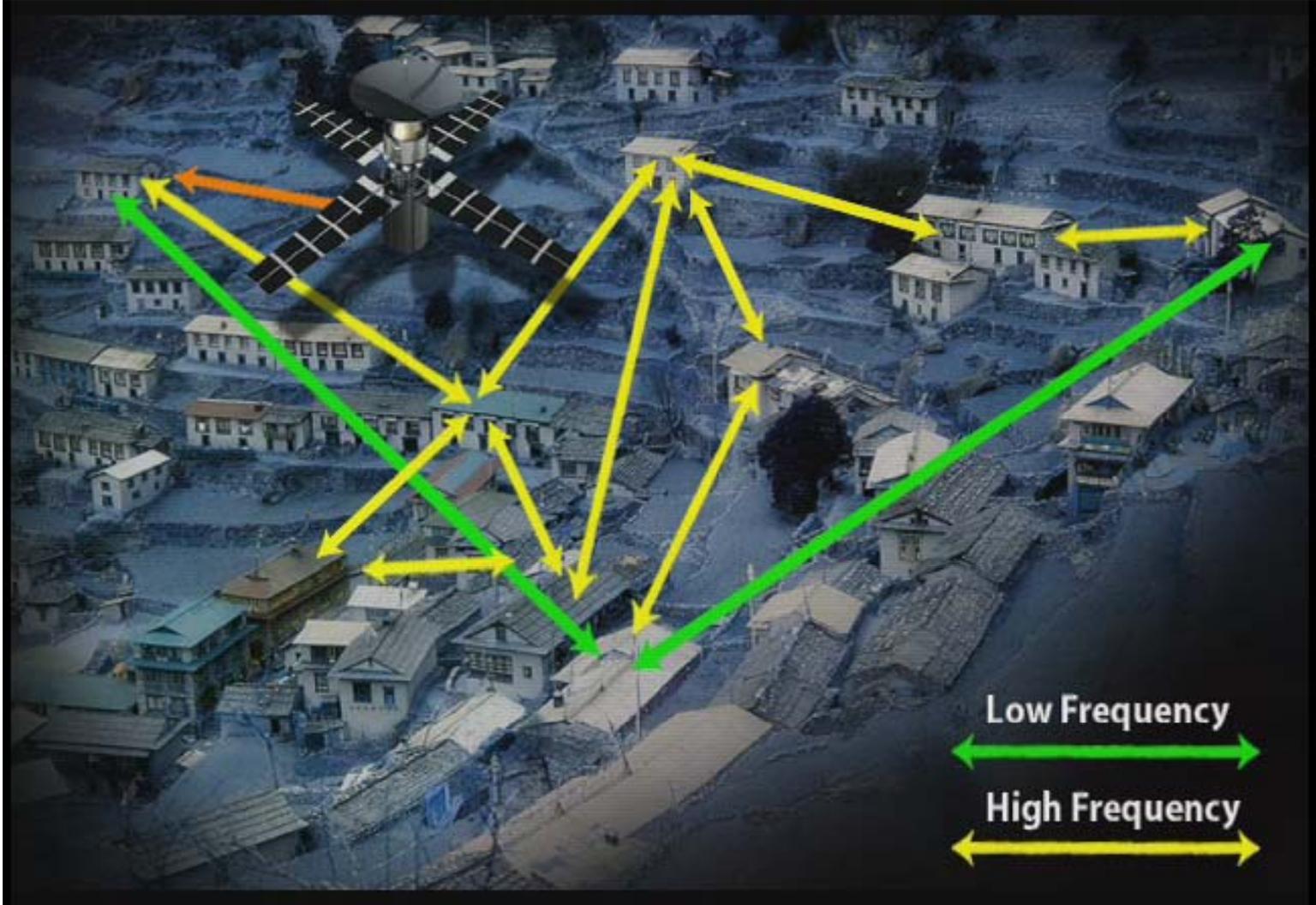
ホワイトスペースの活用 に対する考え方

マイクロソフト株式会社

2009年1月30日

ホワイトスペースへの期待

- UHF帯の活用で、高い周波数帯では展開の難しい山間僻地でも廉価にブロードバンド・インフラを提供できることを期待している
- 家庭向けでも違う部屋など無線LANでは回り込みの難しい環境で、安定したネットワーク接続を提供できる可能性がある
- マイクロソフトはコグニティブ無線やメッシュネットワークについて研究しているが、自社でハードウェア等を製造・販売する予定はない
- ホワイトスペースの活用が認められた場合、地理データベースなどソフトウェアでの対応を要する機能があることを想定して技術を蓄積している



現状認識と要望

- 現状認識：日米にみる環境の違い
 - － 地上放送を受信している視聴者の割合
 - － 地上放送のエリアカバレッジ
 - － 通信事業者の不採算地域での投資
- 要望
 - － 欧米での検討状況も踏まえ、仮にコグニティブ無線が世界で普及した場合に、日本でも可及的速やかに活用できるよう、アナログ停波の予定されている2011年を目途に調査・検討いただきたい
 - － 具体的な検討課題として放送局の地理データベース整備、地上放送の電波の伝播実態の把握、ISDB-Tとの干渉を回避するための技術要件、電波監理のあり方などが考えられるのではないかと